

妊娠、授乳中のおくすり

「そろそろ赤ちゃんが欲しいけど、病気のくすりをのんでいても大丈夫？」「授乳しているけれど、くすりをのんでもいいのかな？」こんなお悩みはありませんか？

まず、妊娠中のお薬が問題となることが多いのは、妊娠と気づかずにのんでしまった場合でしょう。赤ちゃんへの影響が心配になって、自分を責めてはいないでしょうか？妊娠中は確かに安易にお薬をのまないようにしたいものですが、妊娠初期にあやまってお薬を少しのんでしまったとしても赤ちゃんに影響の出るものは多くはありません。

そして、次には、妊娠中に病気にかかってお薬をのまなくてはならない場合かと思えます。つらい症状があっても産婦人科以外のほかの科では、妊娠中にはなかなかお薬を処方してもらえないこともあるでしょう。さらに、冒頭のようなケース、つまり今お薬による治療が必要な病気にかかっているけれど、赤ちゃんができて大丈夫かな？という場合です。妊娠、出産するためにはお母さんの健康があってこそですが、やはり不安になりますよね。ただ、妊娠がわかったからと言ってすべてのお薬が危険なわけではありませんし、病気の治療のための大切なお薬を急に自己判断でやめてしまうのもむしろ心配です。妊娠中でも安心してのめるお薬を選択できる場合もあります。

そして、無事に赤ちゃんが生まれた後は、今度は授乳期がやってきます。授乳しているからと無理してお薬なしでがまんしていませんか？あるいは、「お薬をのんでいる間は授乳をやすんでください」なんて言われていませんか？お母さんが元気でなければ育児どころではありませんし、母乳は簡単には止めたり出したりできませんね。そもそも、母乳育児をあきらめることは、お母さんにとっては精神的な苦痛もともないます。

お母さんがお薬をのむと、ほとんどの薬がわずかながら母乳中に移行するといわれています。ただ、多くの薬は赤ちゃんの体に吸収される量がとても少ないため、赤ちゃんへの影響はあまりないものが多いでしょう。授乳に適さないお薬は限られますが、お母さんが病気のために長期間に薬をのまなくてはならない場合などには注意を必要とします。妊娠を計画する前からお薬の調整や変更ができれば、妊娠中も授乳中も安心できるのではないのでしょうか？

妊娠計画中、妊娠あるいは授乳中のいずれの場合であっても、お薬の服用について心配なことがあれば、ひとりで悩まないで、まずはかかりつけの主治医に相談して下さい。それぞれのケースに応じた専門的な判断やアドバイスを得られるはずですが、また、国立成育医療研究センター内には「妊娠と薬情報センター」という専門機関があり、全国にその拠点施設「妊娠とくすり外来」が設置されており、そちらで相談することも可能です。

そして、薬剤師さんもまた妊婦・授乳婦さんに専門的な情報を提供してくれる力強い

サポーターです。愛知県では、平成 18 年から 3 年間、愛知県健康福祉部健康担当局の事業として「妊婦・授乳婦の医薬品適正使用ネットワーク構築に関する研究」が実施され、妊娠・授乳と薬についての一般向けパンフレットや対応基本手引きなどが作成されました。この頃からスタートしたあいち・くすりフォーラム「妊娠と授乳中のくすりと母と子の健康」は、来年の 2 月で第 9 回目を迎えます。薬剤師だけでなく、医師、看護師、助産師など多くの医療関係者が参加して毎年新しい情報を学んでいます。

さらに、平成 21 年からは「妊娠・授乳サポート薬剤師」養成への取り組みも始まりました。「妊娠・授乳サポート薬剤師」とは、愛知県薬剤師会が開催する所定の研修を修了し、妊娠、授乳中の方からの相談にのり、適切なアドバイスができる薬剤師で、愛知県薬剤師会が独自の養成講座を実施しています。



妊娠、授乳中のお薬に関して疑問がある場合、どうぞお気軽に上記ステッカーのある薬局の薬剤師にお問い合わせ下さい。愛知県薬剤師会ホームページの「お薬についてのお役立ち情報」＜妊娠・授乳と薬＞のページでは、お近くの妊娠・授乳サポート薬剤師を検索することも可能です。

- 1) 妊娠と薬情報センター（国立成育医療センター内）

<https://www.ncchd.go.jp/kusuri/>

- 2) 愛知県薬剤師会ホームページ

<http://www.apha.jp>